

第1回環境・利用部会（2003.3.8開催）結果概要

03.3.26 庶務作成

開催日時：2003年3月8日（土） 16：30～18：40

場 所：京都リサーチパーク 地下1階 バズホール

参加者数：委員22名、他部会委員2名、オブザーバー1名、河川管理者18名、一般傍聴者61名

1 決定事項

- ・ 環境・利用部会の部会長代理として中村委員が決定した。
- ・ 短時間で効率的に議論を進めるために3つの検討班（自然環境、水質、利用）を設置することが決定し、リーダーとメンバー構成が以下の通りに決定した。なお、欠席された委員（下線の委員）については、後日、所属について確認した上で最終決定とする。
自然環境：川端委員（リーダー）、西野委員（サブリーダー）、江頭委員、紀平委員、小林委員、田中（真）委員、谷田委員、寺川委員、長田委員、松岡委員、吉田委員、鷺谷委員
- 水 質：宗宮委員（リーダー）、川上委員、田中（哲）委員、中村委員、原田委員、三田村委員、矢野委員、和田委員
- 利 用：榎屋委員（リーダー）、有馬委員、井上委員、倉田委員、服部委員、細川委員、楨村委員、山村委員、山本委員、渡辺委員
- ・ 次回の部会（3/27）は当初部会が予定されていた時間（15:30～17:30）の前半2/3で検討班を開催し、後半1/3で第2回部会を開催する。それまでにリーダーを中心に各担当分野について班毎に検討内容を詰めておく。
- ・ 4月中旬に1～2回程度部会を開催する方向で日程調整を行う。

2 審議の概要

部会長からのあいさつ及び委員の紹介

部会長あいさつ及び委員の紹介が行われ、部会長代理の選出が行われた。上記「1.決定事項」参照。

部会での検討事項およびスケジュール

資料1「淀川水系流域委員会 第18回委員会 結果概要（暫定版）」、資料2「テーマ別部会について」、資料2補足「環境・利用部会の今後の進め方（案）」をもとに、今後の部会での検討事項やスケジュール、検討班の設置等について説明が行われ、上記「1.決定事項」の通り決定した。主な意見については、「3 主な質疑応答と意見交換」を参照。
淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料（第1稿）に関する意見交換

河川管理者から、資料3-2-1「説明資料（第1稿） 質問の回答」、3-2-3「委員からの質問と回答」を用いて、委員からの環境及び利用に関する質問と意見に対して回答があった。その後、河川管理者の説明に対して、委員からの追加質問があり、意見交換が行われた。主な意見については、「3 主な質疑応答と意見交換」を参照。

一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者からの発言はなかった。

3 主な質疑応答と意見交換

部会での検討事項およびスケジュール

資料1「淀川水系流域委員会 第18回委員会 結果概要（暫定版）」、資料2「テーマ別部会について」、資料2補足「環境・利用部会の今後の進め方（案）」をもとに、今後の部会での検討事項やスケジュール、班分けなどについて説明が行われ、上記「1.決定事項」のとおりに承認された。主な意見は次の通り。

主な意見

- ・ダムについては検討班を別に設けてはどうか。自然環境班の中に含めると議論が散漫になる恐れがある。

ダムは社会的反響が大きく、提言の中でも象徴的に扱われがちな問題だが、特にダムを扱う部会がない今の体制では十分な審議ができない危惧がある。せめて部会でダムのみ議論する場を1、2回設けてはどうか。

各検討班での議論において、1回はダムとの関わり限定して議論してはどうか。ダムは全体に関係する問題なので、まず各班がそれぞれの視点で議論して部会でその結果を持ちより審議してはどうか。最終的には委員会で他部会からの意見も含め総合的に議論される。（部会長）

検討班及びこの部会では、ダムも川も含めて示された整備計画の内容が自然環境の復活や再生の方向に合っているかをチェックすることがポイントになる。（部会長）
ダムの問題を含め、この部会だけでは完結しない問題は多い。どこまで議論できているのかをきちんと整理して委員会に持ち込むことが重要である。

各部会でそれぞれに議論した場合、後に整合性の問題が出てこないか。議論を共有できる場をつくりながら審議を進めた方がよい。部会によって違った意見が出てしまうことを心配している。

委員会が1月に提示した提言が大前提としてあるので、考え方が大きく違ってくることはないはずだ。またテーマ別部会で議論された内容は、その後、地域部会の視点で議論される。（部会長）

- ・メーリングリストをつくるなど、班のメンバー同士が双方向で議論できるよう工夫してほしい。

河川管理者から、資料3-2-1「説明資料（第1稿）質問の回答」、3-2-3「委員からの質問と回答」を用いて、委員からの環境及び利用に関する質問と意見に対して回答があった。その後、河川管理者の説明に対して、委員からの追加質問があり、意見交換が行われた。主な意見と質疑応答は以下の通り。

主な意見と質疑応答

- ・琵琶湖の水位の試験運用について、制限水位は変えずに、制限水位に至るまでの水位の移行パターンのみを変えろというやり方（資料3-2-3（環境・利用部分の16頁））では、現在指摘されている魚類の産卵への影響等に対する効果は上がらないと考えられる。現行の法律の下での難しさは承知しているが、検討課題として、洗堰操作規則変更以前に戻すことも視野に入れるべき。

資料3-2-3（環境・利用部分の16頁）は、制限水位がある場合、そこに至る下げ方

の改善を図ることを目的とした試験運用のイメージとして紹介した。琵琶湖の水位低下の頻度が高くなっていることに対しては、制限水位の高さやその時期（6月15日）の変更も検討の対象になると考えている。その際には、治水上のデメリットを含めた検討や関係者との調整が検討過程や試験運用の実施において必要である。

（河川管理者）

- ・琵琶湖について、地下水の調査研究を進めることも、瀬切れなど河川環境の改善につながる可能性がある。水の循環系を変えることによる弊害についても検討が必要だが、上流で浸透流として地下に入る水を地表に返すことなども含め、総合的な検討をしていただきたい。

河川の縦横断方向の連続性の確保と回復の観点からも流水の回復は大変重要だと認識している。地下水の流れを変えた場合の影響などを含めた検討が必要と思っている。（河川管理者）

地下水の問題は様々なものを含んでいる。データも十分でないため、今後もデータを集めていく必要がある。（部会長）

- ・資料3-2-3（環境・利用部分の13頁）に家棟川ビオトープの試験施工という説明があったが、どういうものを指してビオトープといわれているのか教えていただきたい。淀川で穂谷川の合流点につくられているものを見たが、ビオトープという言葉の使い方に疑問がある。

厳密な定義を持っているわけではない。穂谷川の合流点では、横断方向の修復の一部として単調だった地形を従来の河原により近い複雑で多様な状態にすることで自然に川の生物などが生息することを期待し、あえて植物を植えたりはしていない。

（河川管理者）

家棟川では積極的に人の手を入れる考え方で、植物などを植えている。（河川管理者）

家棟川の事業は、全く植物がないところに土を盛り水路を作り湖岸に生育するような植物を植えて、人が手伝いながら自然度の高いビオトープをつくることを目指した試験的なものである。

- ・説明資料（第1稿）の5章で様々な事業名や地名が記載されているが、実際にどのようなことが行われているのか実情がわかるような説明がほしい。

5章で記されている全事業について具体的な整備内容を記した個票（資料3-2-3の環境・利用部会部分の22頁以降に一部掲載）を作成中であり、でき次第、委員宛に送付したい。（河川管理者）

- ・意見No.61への回答によると、河川敷のグラウンド等や河川公園は法律に基づく指定や国の許可を受けているようだが、河川公園やグラウンド、ゴルフ場などが高水敷に設けられるようになった経緯を教えていただきたい。

昭和40年に河川の高水敷をスポーツ施設等で有効利用しようという決議が国会でなされたことを受けて、国営公園事業という制度に基づき淀川でも河川敷の公園の整備が進められてきた。法律的には都市公園法に基づいている。ゴルフ場については、大阪府が管理していた昭和30年代に占有の許可があり、昭和39年新河川法のもと国が引き継いだ。一部の人のみの利用にならないよう公共化したり、また面積も縮小してきている。（河川管理者）

- ・ダムに関する回答の説明がなかったが、他の部会で説明されたのか。

ダムについては、再編に関する説明は治水部会で行ったが、環境に係る部分はこの部会で説明すべきだった。回答内容は配布資料に記しているのをご参照頂き、改めて説明が必要な場合にはまた説明させて頂きたい。（河川管理者）

- ・治水の部分（資料 3-2-3 の治水部会部分の 20 頁）で、応急的な処置が必要な堤防については堤防上の道を舗装し中にブロックを入れるといった工法が紹介されているが、治水面ではそれでよくても、環境や利用の面ではどうなのか。利用面で言えば、堤防の土道を多くの方がウォーキングなどに利用されているので、舗装してほしくない。この件は治水の観点からだけでなく、環境や利用の面からの検討も必要である。
- ・次回の部会での検討に当たって、資料 3-3 の環境及び利用の該当箇所をご覧頂き、各自で論点を中心に検討しておいてほしい。（部会長）

以上

説明および発言内容は、随時変更する可能性があります。議事内容の詳細については、「議事録」をご覧ください。最新の結果概要および議事録はホームページに掲載しております。